

枕崎宣言

1. 東日本大震災について

今年3月11日に発生した東日本大震災では、カツオ漁業や関連産業の盛んな気仙沼や石巻、女川はじめ東北沿岸地域で多くの人命とともに魚市場や冷蔵庫、水産加工施設、油層タンク、造船所等水産関連施設が壊滅的被害を受けました。

枕崎市所属の遠洋カツオ一本釣船も漁期の半分を近海、三陸沖で操業しているため、餌場の被害や操業区域制限、風評被害等の漁業被害を受けています。

本大会では被災地のカツオ産業をはじめ水産関係者の状況について、再認識しました。私たちは、一日も早い復旧・復興を願うとともに、復旧・復興事業を促進するための活動の支援に努めることを表明します。

2. カツオ資源の保全について

高知県黒潮町と宮城県気仙沼市で開催されたカツオフォーラムでは主に日本近海に回遊するカツオ資源について討議されてきました。

本大会では、国際商品であるカツオを国際的視野で考察するとともに漁法や漁労技術を通してカツオ資源について検討しました。

中西部太平洋海域を含む世界のカツオ資源を持続的に活用可能な資源として維持するために、WCPFC（中西部太平洋まぐろ類委員会）等国際会議において、まき網漁業の漁獲量を資源評価に反映させるために必要な多国間調査の実施や科学的根拠に基づく適正な漁獲管理体制の構築等に取り組むよう強く求めます。

私たちは、こうした情勢をカツオ資源の大きな転換期と捉え危機的状況にある日本のカツオ漁業者の意見としてさらに強く主張するメッセージを送ります。

3. カツオの地域に根差した有効活用の推進について

カツオは、古来からタンパク源として食されるとともに煎汁など調味料の原料としても利用されてきましたが、現代ではかつお節をはじめ粉末や液体の天然調味料の原料として使用されています。

本大会では、カツオの機能性と地域に根差した利活用について検討しました。かつお節製造過程等で生じる頭部や内臓、骨など副産物は、一昔前までは、塩辛や飼肥料に加工するだけでしたが、カツオに有用成分が含まれていることが判明し、最近ではDHAやカルシウムなど健康食品素材の抽出等高度利用が進められています。

私たちは、カツオの栄養学的特性の周知を図り、刺身、たたき等のかつお製品並びに日本固有の伝統食品であるかつお節類の販路拡大に努めるとともにカツオを余すことなく有効活用し、新たな産業創出に積極果敢に挑んでいく決意を表明します。

平成23年11月13日

2011 カツオフォーラム in 枕崎